

## 2014 東京農業大学コメに関する国際シンポジウム実施要領

テーマ：「アジア・アフリカ地域でのコメ生産技術革新と将来の需給見通し」

日時：2014年1月22日（水） 13:00～17:30（受付開始 12:30）

会場：東京農業大学 世田谷キャンパス 百周年記念講堂 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

プログラム

◆開会挨拶		
	東京農業大学学長 高野克己	13:00～13:05
	東京農業大学総合研究所所長 渡邊文雄	13:05～13:10
◆シンポジウムの趣旨説明		13:10～13:15
	シンポジウム実行委員長・東京農業大学教授 佐々木卓治	
◆報告		
第1報告「全世界及び地域別のコメ需給動向と将来見通し：市場価格変動からのインパクト」		13:15～13:45
	九州大学大学院農学研究院教授 伊東正一	
第2報告“The molecular design of China super rice”（中国スーパーライスの分子デザイン育種）		13:45～14:15
	中国水稻研究所副所長 Dr. Qian Qian	
第3報告“Rice-based farming systems in Cambodia”（カンボジアにおける稲作主体の営農システム）		14:15～14:45
	カンボジア王立農業大学農学部長 Dr. Chuong Sophal	
	休憩（15分）	14:45～15:00
第4報告「アフリカの稲作とNERICA」		15:00～15:30
	東京農業大学農学部教授 池田良一	
第5報告「植物科学を用いた穀物増産へのチャレンジ」		15:30～16:00
	名古屋大学生物機能開発利用研究センター教授 芦荊基行	
第6報告「稲作農業の現場的課題～日本の経験から途上国へ示唆するもの～」		16:00～16:30
	東京農業大学国際食料情報学部教授 板垣啓四郎	
	休憩（15分）	16:30～16:45
◆ディスカッション		16:45～17:30

主催：東京農業大学総合研究所 協力：東京農業大学国際協力センター

企画：実行委員長 佐々木卓治（東京農業大学総合研究所教授）

対象者：世界におけるコメの育種と栽培の現状および今後の課題などといった技術的側面ならびにコメに関する国際需給の動向と将来見通しなど経済的側面に興味をもつ学内外の者および本学の院生・学部生など

目的：コメは世界における主要な食料穀物の一つであり、世界における人口の増加趨勢および近年のサハラ以南アフリカ諸国および中近東諸国などでのコメに対する消費者ニーズの高まりを考慮に入れるならば、今後ともその増産と品質向上は普遍的な地球規模の課題と考えられます。そこで、本シンポジウムにおきましては、コメに関わるさまざまな側面、すなわち育種、栽培、国際協力、世界の需給動向と見通し、現場のかかえる諸問題などについて国内外の専門家から話題を提供していただき、将来に向けたコメの増産と品質向上の可能性およびそのための現場的な諸課題について学際的および総合的な視点で論じていくことを目的としています。

構成：シンポジウムのねらい

- 1) 世界における地域別にみたコメの需給動向と将来見通し
- 2) コメ育種の技術的成果と品種改良上の課題（中国の事例）
- 3) コメ栽培の現状と今後の取り組むべき課題（カンボジアの事例）
- 4) コメ栽培の現状と今後の取り組むべき課題（アフリカでの技術協力の経験）
- 5) わが国の先端コメ育種技術の海外への展開
- 6) コメ増産と品質向上へ向けた現場レベルでの課題

ディスカッション